

景気支援に向け、予想を上回る利下げに 踏み切ったブラジル中央銀行

楽読(ラクヨミ)

nikko am
fund academy

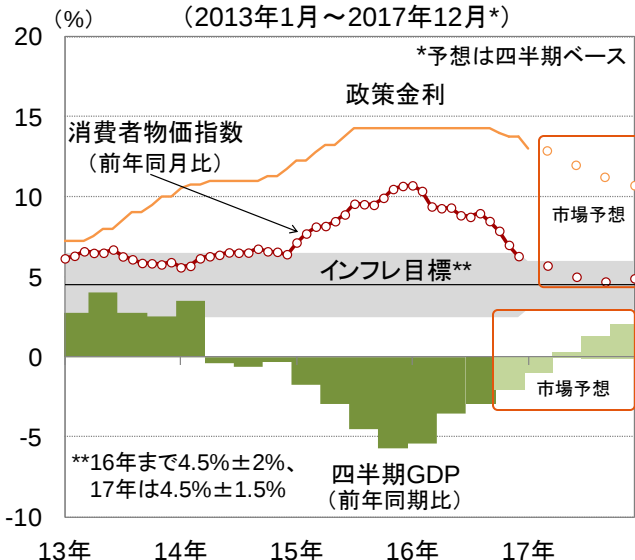
ブラジル中央銀行は1月11日の金融政策委員会で、昨年10月から3会合連続となる利下げを決定し、政策金利を13.00%としました。過去2回の利下げ幅がいずれも0.25ポイントだったのに対し、今回は0.50ポイントへ引き下げ幅が拡大されるというのが市場の大勢の見方でしたが、実際には0.75ポイントの大幅引き下げとなりました。

中央銀行は声明で、物価上昇率が足元だけでなく、先々の見通しも含めて改善(低下)傾向にあることに加えて、予想を下回る経済指標が多く、景気回復に従来の想定以上の時間を要する可能性があることなどを背景として、利下げ幅を拡大したと説明しています。ブラジルの物価上昇率は、2016年1月には前年同月比+10.71%でしたが、12月は+6.29%と、同年のインフレ目標レンジの上限を下回りました。さらに、今回、中央銀行が発表した物価見通しでは、2017年はインフレ目標の中央値を下回る+4.0%に、さらに、2018年は+3.4%に鈍化するとされています。なお、中央銀行は、今回の利下げ局面の期間や今後の利下げペースは物価状況次第としていますが、少なくとも向こう数回の金融政策委員会では0.75ポイントの利下げが行なわれる可能性が高く、年内に政策金利が9%台に低下するとの見方が広がりつつある模様です。

2016年にブラジル・リアルは、景気底打ちの兆しや経常赤字の縮小、原油をはじめとする主要商品の市況の持ち直しなどを背景に、概ね上昇傾向となりました。なお、対米ドルでは、11月の米大統領選挙でのトランプ氏の勝利やその後の米金利の急上昇などを受け、下振れする局面もあったものの、その下げを足元でほぼ解消しています。今後、利下げは従来の想定を上回るペースで進むとみられるものの、金利水準が引き続き主要新興国の中で相対的に高いことなどから、リアルを大きく押し下げる要因となる可能性は低いと考えられます。むしろ、利下げの効果などで景気見通しが改善に向かえば、同国の中長期的な成長性や金利水準の高さなどへの注目が高まると期待されます。

ブラジルの主要指標の推移

(2013年1月～2017年12月*)



注:市場予想は今回の利下げ決定以前のもの

信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

※上記は過去のものおよび予想であり、将来を約束するものではありません。

ブラジル・リアルと原油価格の推移

(2013年初～2017年1月11日)

(リアル)



日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。